



## 災害と動物

一年 小池美桜

動物と一緒に暮らしていくことは、特別難しいことではないように思えます。なぜなら多くの人が様々な動物を家族として家に迎えているからです。その一方で、問題が起きていることを、私はたくさんの人に知ってもらいたいと思っています。

日本は災害大国と言われるほど自然災害が多い国だといわれていて、近年では毎年のように被災地が生まれています。最近でも九州で豪雨災害が起き、私もニュースで見てその酷さに驚いていました。同じ時、ニュースではある家族の救出活動が映し出されていました。屋根の上で助けを求め親子の横には、不安そうに歩き回る一匹の犬の姿があったのです。私は救助隊の方が来てくれてよかったなとほっとしていました。しかしテレビの画面に現れた文字は『人命救助優先』の言葉。家族はそこに犬用のご飯を残し、先にへりで運ばれて行きました。

皆さんは『マリと子犬の物語』という映画を見たことがありますか？その映画では飼っていたマリという犬を、避難の際置いていくことになってしまいます。余震が続く危険な中マリは子犬とともに、主の姿と食糧を探しながら生き延びていきます。最終的に家族と再会でき私は本当に感動しましたが、同時に失われていくペットもたくさんいるのです。私は犬を飼っているので、自分と重ねてしまい、たくさんの想いがあふれてきました。

私がこの立場だったらどうするのだろう。どうして犬だからと避難させてもらえないのだろう。犬の人間も同じ命ではないのか。

でも実際これは難しい問題だと思います。最近では『同行避難』と呼ばれる、飼い主はペットを連れて避難することは原則となっています。でも『同伴避難』といい、飼い主とペットが避難所で一緒に生活できるというものは違います。それを認められているのは、盲導犬、聴導犬、介助犬などの一部の動物だけだそうです。地域によっては動物専用のスペースを避難所に設けてくれる所もあるようですが、まだ多くはありません。

そこで私は一部の地域の避難所で実施されている『ペット専用スペース』を全ての避難所に設けるべきだと考えます。災害が起きたら救助犬、盲目になったら盲導犬、その他警察犬など、犬を始め動物たちは人間のために様々な場面で働いてくれています。ペットの飼い主、または動物の販売をしているのが人間だと言うことは紛れもない事実であり、最後まで責任を持つことを人間は忘れないでほしいと思います。

動物に関する問題はその他にもたくさんあります。動物への虐待や、野生の動物が人里に下りてくる問題、解決していかなければいけない課題は世の中にあふれています。

これから生活していく上で、様々な生き物が人間と共にこの地球で暮らしていることを常に頭に置きながら、動物を好きな人も嫌いな人も、快適に生活できることが理想です。